

JR 北海道の安全と北の鉄路を考える

1.22 道民の集い...資料

建交労北海道鉄道本部・奈良之雅

北の鉄路は国策でしか守れない・・・要人の発言

JR 北海道小池会長（H26.1.6 新年挨拶）

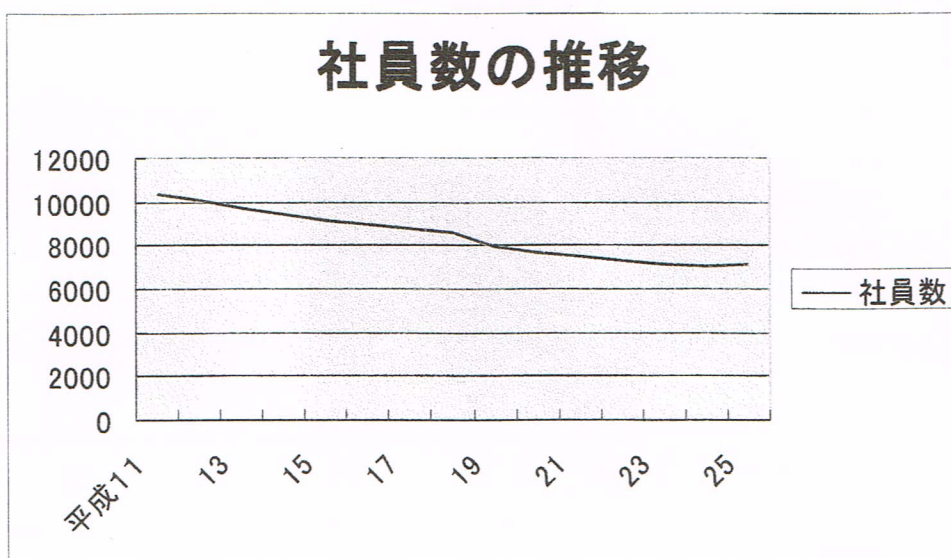
- ・ 国鉄改革から 26 年が経過し、国鉄時代のように赤字を累積させてはならない努力を重ねてきたが経営安定基金運用益の低下で赤字を回避するために合理化を推進、新規採用を抑制、経費の節減を行ってきた。このことが安全性を維持し、向上させるための投資や修繕費用を十分に確保できず、現在起きているいろいろな問題をまねくことになったことを否めない。

石破自民党幹事長（H25.11.2 札幌市で講演）

- ・ 「JR 北海道を責めればいいという話しではない。株主としての責任をどこまで果たしたのかを国が問われなければならない。」
- ・ 「国の責任とは何で、国が負担すべきゆえんはどこにあり、どういう法律を作らなければならないか。われわれは答えを出さなければならない」（H25.11.3 道新）

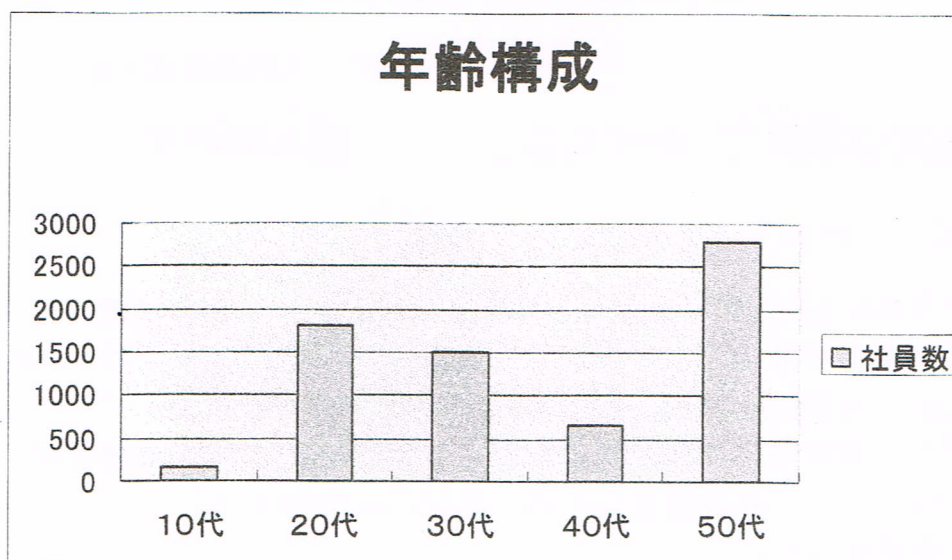
◎ 今、なぜさまざまな問題が起きているのか？

人が足りない ⇒ 十分な教育が出来ない ⇒ 技術力の低下



◎ 年代別社員構成

中堅となる40代社員が極端に少ない



その主な理由は

- 分割民营化前、20歳代社員を公的部門へ誘導した。
- 分割民营化時、20歳代社員を不当解雇した。
- 分割民营化後、新規採用を抑制した。

◎ 設備投資額の推移

予算が足りない ⇒ 設備・車両の更新が遅れる ⇒ 事故・故障の発生

